

平成27年4月1日一部改定の日本卓球ルールを適用して実施する。

最近のルール改定のポイント

(服装検査)平成27年9月1日適用開始

- シャツ(袖、襟を除く)、ショーツまたはスカートの主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色で無ければならない。(シャツの袖と衿はボールと同じ色であっても構わない。)

(ラケット検査)

- ラケット検査は、原則として試合前に行われる。
- 試合前の検査に合格しなかったラケットは、その試合では使用出来ないで、「別のラケット」を使用しなければならない。使用した「別のラケット」は試合終了後に検査されることになる。もし試合後の検査に「別のラケット」が合格しなかった場合、その「別のラケット」を使用した競技者にペナルティーが科せられる。(コートに入る前に時間があれば「別のラケット」も検査出来る。)
- 試合前にラケットの検査を受けなかった場合には、試合終了後に検査を受ける。

- 一般男子・女子シングルスは1〜3回戦までは5ゲーム。4回戦から決勝までは7ゲーム。他種目はすべて5ゲームにて行う。

1. ボール、卓球台、ラバー、ラケット、試合方法について

- ボールは日本卓球協会公認の「白色スリースター」40mmプラスチックボールを使用する。
- 各選手(組)は、「選手集会所」(コールエリア)でボールを1または2個選択し主審に渡すものとする。
- 対戦する相手同士が選択したボールのメーカーが異なる場合、試合開始時にジャンケンで決定する。
- 選択したボールが破損等で使用出来なくなった場合、または双方の選手(組)があらかじめボールを選択して来なかった場合には、主審が所持するボールの中から無作為に1個を選択して使用するものとする。
- 卓球台はエメラルドグリーンの台を使用する。床にフロアマットを使用する場合がある。
- 外国製ラケットでJTTAが公認していないものを使用する場合には、あらかじめ試合開始の1時間前までに「ラケット使用許可願い」を提出し、審判長の確認・許可を受けてから使用するものとする。
- ラバーは、JTTAまたはITTFが公認したことを示す公認ロゴ付きのものでなければ使用できない。
- ゲーム中にラケットを破損した場合は、スベアまたはプレー領域内で手渡された「別のラケット」に交換し、すぐにプレーを再開することとする。

《ラケット検査の手順に関する注意点》

- 選手は、試合開始予定時刻の20分前までに、試合で使用するラケットを持ってコールエリア(選手集会所)に集合し、検査を受けるものとする。
- 審判長から指名された選手は、ラケットコントロール室での検査を受けることとなる。ラケットコントロール室での検査は、VOC、接着剤を含むラバーの厚さ(ソフトラバーは4.0mmを超えないこと、スポンジのないラバーは2.0mmを超えないこと)、表面の平坦性等の検査を行う。
- 試合前検査で使用出来ないと判定され、不合格となった場合、別のラケットに交換して試合を行うものとする。
- 試合直前に交換した別のラケット、試合前検査に間に合わなかったラケット、試合中に破損して取り替えたラケットは、試合後に検査を受けるものとする。試合後の検査で違反と判定された場合、その選手は負けとなり、相手の選手が勝ちとなる。
- 試合前、試合後を問わず、同一競技者がラケット検査で、大会期間中に3回の不合格の判定を受けた場合には、その競技者は大会の参加資格を失うものとする。
- 選手の希望により、試合開始前までにラケットの自主検査を受けることができる。

2. サービスについて

- サービス開始時にフリーハンドの方の手のひらを開き、ボールをのせて静止させる。
- ボールに回転を与えることなく、ボールが手のひらから離れた後16cm以上、ほぼ垂直に投げ上げ、落下する途中を打たなければならない。
- サービスを開始してから打球されるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、エンドラインの後方にななければならない。またその間、サーバーまたはダブルスのパートナーの体の一部、または着用している物でボールをレシーバーから隠してはならない。
- ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアーム(腕)とフリーハンド(手首から先)をボールとネットとの間の空間の外に出さなければならない。

3. 競技服装について

- 競技用服装(シャツ、ショーツ、スカート)は、JTTAの公認マークの付いているものを着用すること。
- 同じ服装による対戦を避けるため、**色の異なった2種類以上の服装**を用意すること。
- ダブルスを組む競技者は、互いに所属が異なる場合でも、同一の服装でなければならない。(添付されている広告の同一性は不問とする)。ただし、ショーツ、スカートについては、同系色であれば、まったく同一でなくとも着用できる。

- 競技用服装以外に、サポーター、リストバンド、ヘアバンド、スパッツを着用できる。それらの着用物上にメーカーロゴの表示がある場合は、同ロゴが日卓協公認用具指定業者のものであることを条件に1箇所の表示のみ認められるものとする。
- アンダーシャツは競技用服装から大きくはみ出さないことを条件に、着用できるものとする。アンダーシャツがはみ出した場合、はみ出した部分には、メーカーの商標・ロゴが見えていてはならないものとする。
- 「ゼッケン」は、主催者が用意したもの以外は使用出来ないものとする。

4. タイムアウトについて

- 競技者(組)または指名されたアドバイザーは、1マッチを通じて1分以内の「タイムアウト」を1回要求することができる。
- タイムアウトは、ゲーム中のラリーとラリーの間においてのみ要求できる。その際、手で「T」の字を作るか、又は用意されたホワイトカードを使用して、**主審にその意思を明確に示すものとする。**
- 競技者(組)とアドバイザーの意思・要求が異なった時は、競技者(組)の意思・要求が優先される。

5. バッドマナーについて

- 競技者またはアドバイザーが大声で叫ぶ、汚い言葉を使う、相手選手を威嚇する、故意にボールを潰したり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う等、相手競技者に対し悪い影響を与える、観客に不快感を与える、ゲームの評価を落とすような態度をとる、または無断でラケットを交換する、競技役員の指示を無視するなどの行為がバッドマナーとなる。
- バッドマナーに対して最初イエローカードが提示され、警告される。
- 選手のバッドマナーが繰り返された場合には、イエロー・レッドカードが提示される。バッドマナーと判断された選手の対戦相手はポイントを獲得する。
- 重大なバッドマナーを行った側には、それが最初であっても退場、失格等のペナルティーが科せられる場合がある。
- 「スロープレー」もバッドマナーの対象となるものである。競技者は、ポイントが決定した後、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、みだりに時間を取ることなく、競技の円滑な進行に協力しなければならない。
- 試合開始時刻に遅れる、理由なく相手を待たせる等の行為もバッドマナーとなるものであり、競技スケジュールを確認し、競技の円滑な進行に協力しなければならない。

6. アドバイス・抗議について

- ベンチには、試合開始前に届け出たアドバイザー1名のみが入ることができる。
- アドバイザーは原則として、競技者と一緒にベンチに入ることが望ましい。
- 試合中のアドバイスは、ゲームとゲームの間の休憩時間、または関係規定で定められた競技中断時にのみ認められる。
- 試合中のアドバイスは、認められた時間以外には、ジェスチャーも含め、一切禁止されている。違反した者には退場を含めた罰則が科せられる。最初の違反ではイエローカードの提示とともに警告がなされ、2回目の違反では、レッドカードの提示とともに競技領域外への退場が求められる。
- 抗議は、その試合に参加している競技者のみが行うことができる。
- 競技者、アドバイザーは、主審または副審による事実の判定(ジャッジ)に対しては抗議出来ない。

※同時に2コートのアドバイザーとなることを希望する場合は、各試合前に主審に届け出る事により許可される。

7. 幕・旗の掲示について

- 大会参加者が掲示出来る横幕は、縦1m、横4mの範囲の大きさとし、卓球部名が入っていないなければならない。
- 横幕の表示は、競技会のスポンサーとして協賛するところ以外は、卓球部名以上に企業名を大きくしたものは、宣伝を目的としたものとして認めない。
- 横断幕に支柱を付けて、座席で立てる、振るなどしてはならない。
- 校旗、部旗は縦1.5m×横2m以内とし、校章、社章またはシンボルマークは中央に入れ、タテかヨコ表示の卓球部名が入っているものとする。
- 縦幕の使用は許可しない。

※応援のための横幕、旗は、自チームの全選手の試合が終了した後、速やかに撤去すること。

8. 一般的注意事項

- 競技日程・組み合わせ・試合予定時間・試合コート等を自ら確認しコートへの入場を遅らせないこと。
- 試合予定時刻より早い時期に試合を開始できる場合には、試合開始予定時刻の15分前から試合を行う場合がある。
- 前項の場合を含め、競技運営上の都合により、予告なしに試合コートあるいは開始時刻が変更されることがあるため、場内放送・掲示等に注意して行動すること。
- カメラ、ビデオ撮影は、選手が自己のプレーを撮影する目的に限定し、1台のみ使用することができる。
- 競技領域及びその近辺での携帯電話の使用を禁止する。
- 自己の身体状況にあったウォームアップをして試合に臨むこと。特に、関節、アキレス腱などに対する準備運動は必ず行うこと。
- 主催者は競技中に起こったケガ・事故については応急処置を施すが、その結果およびそこから派生する問題についての一切の責任は負わないものとする。
- 主催者は、大会中に発生した盗難については一切責任を負わない。